
教育総合センター

だより

NO. 154

令和 元. 12. 1



「守破離」の守を学ぶ

尼崎市立園田東中学校

校長 中 俊弘

武道や茶道の教えの中に「守破離」という言葉があります。「守」は、先人や師匠の教えを素直に聞き、物事の基本を身に付けること。「破」は、身に付けた基本をもとに、いろいろな指導方法を学び工夫していくこと。「離」は、自らの指導方法を作り出すこと。この3つの教えが教師として成長していくためには、必要だと考えていました。そして、その中でも特に大切なのは全ての基本になる「守」であり、その大切な「守」を築いて下さったのが新採用で赴任した時の日新中学校の先生方でした。

着任して早々の体育の走り幅跳びの授業を行っていたときのことです。先輩の先生が急に来られ、「そんな走り幅跳びの授業と違う。私がやるから見とき」と模範授業を行って下さり、砂場が硬いと生徒が怪我をするので、砂に空気を入れるように掘ることや砂の値段が高いので大切に扱うことなど細かいところまで丁寧に教えて下さいました。

生徒指導においては、朝早く登校指導をしていて、生徒に「おはようございます。」と挨拶しても返事が返って来るのが少ないなど思っていると「挨拶は返してもらおうと思ってするんちゃうで、自分の思いを生徒に表すだけでいいねん。挨拶していない生徒も心の中では挨拶しているんやで」と教えて頂き、空き時間には、常に廊下を巡回しながら生徒の様子を見守ること。問題行動が発生した時は、子どもを色眼鏡で見ず、しっかりと話を聞き速やかに保護者に連絡

を入れること（できるだけ家庭訪問を行う）。複数の生徒が関係する問題行動では、必ず個別に聞き取りを行うこと等を教えて頂きました。

クラブ活動においては、基本指導が大切で、生徒が飽きないように稽古内容を研究することや技術の習得が悪い場合は、相手が理解するまで、何度でも何度でも徹底して指導する根気を持つこと。試合当日には、生徒に暗示を掛け自信を持たせること。また、生徒の調子が崩れていると「あなたの練習方法は古い。生徒のコンディションを整え、計画的練習をせなあかん」と厳しく教えて頂きました。

そして1日の終わりには、他の若手の先生方と居酒屋に連れて行って頂き、生徒の話をしながら情報交換を行い、今後の指導等について話を深めながらいろいろな指導方法を学びました。

その後、大成中学校・園田東中学校に転勤しても、日新中学校時代の諸先輩方に教えて頂き築くことができた「守」を大切にしながら先進校視察等を行い、時代や地域に合った指導方法を研究して「破」を身に付けました。

管理職となってからは、「生徒の成長のためには何が必要であるか」を考え、教職員が同じ目的に向かい、思いをひとつにして仕事をすることを大切に、各種の取り組みを行い「離」を確立するために研鑽に励んでいます。

最後に、私の中に「守」の基本を築いて下さった先輩の先生方に深く感謝申し上げます。



受動的な授業から能動的な授業へ ～中学校アクティブ・ラーニング 授業実践部会を通して～



はじめに

この部会に参加する前の本校の状態として、「アクティブ・ラーニングとは、学習者である生徒が受動的になってしまう授業を行うのではなく、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法である」ということは、ほとんどの先生がわかっていました。ただ、どのようにしたらいいのかがよくわからず、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業がなかなかできずにいました。

「アクティブ・ラーニングって何…？」

ところが、この部会に参加して学ぶ中で、アクティブ・ラーニングとは、学習方法・手段であって、形にこだわる必要はなく、「これをしたからアクティブ・ラーニングだ」というものではないことや、「生徒が能動的（アクティブ）に学ぶためにはどのように生徒を支援するべきか」を考えるのが大切であることなど、多くのことに気づかされました。

様々な方法がある

また、アクティブ・ラーニングの手法として、協働学習や話し合い、シンキングツールの活用といった様々な手法を学ぶことができたので、「どの場面で、どの方法を用いることが、生徒にとって最も能動的（アクティブ）に学びやすいのか」を考えるようになりました。さらに、「アクティブ・ラーニングをするために話し合いをする」というのではなく、「生徒が主体的に学ぶため、生徒が対話的に学ぶため、生徒の個々の理解を深めるため、生徒の持つ情報を関連付けて概念的に理解をするため」というように、生徒に対して何を重視しているかを考え、課題を提案していくようにしていきました。

全体への共有と個々のフィードバック

協働活動等を行ったら、必ず全体へ発表するようにしています。これは、「自分自身や他者の考えた結果をわかりやすく表現できる」

という表現力の育成のために行っています。わかりやすく表現することができれば、そこから、また新たな発見をする生徒も必ずいます。そのために、全体への共有は必要であると考えています。また、個々での振り返りでは、自分たちの問題解決方法は、「なぜ解決に至らなかったのか」、もしくは問題解決が上手くいったのであれば、「何が上手くいったのか」を振り返ることによって、知識の活用力向上にもつながるよう考えています。

直面する課題

話し合いや協働活動の取り組みは、多くの生徒が前向きに、積極的に参加をしています。しかし、他者にわかりやすく説明をするための、具体的で明確な根拠を考えることが苦手な生徒が多く、一部の生徒に根拠を考えることを任せている現状です。また、説明を聞けば納得する生徒もいるが、「本当に納得できた生徒がどのぐらいいるのか」をはかる明確な資料がないところも、今後の課題といえます。

今後の展望

知識を活用し、教科固有の知識を様々な教科にでも活用できるようになれば、思考力や表現力はより汎用的になっていき「学んだことで何ができるようになるか」という資質・能力の育成につながっていくと考えています。そのための段階として今は、一単元のつながりから単元全体のつながり、そして教科間のつながりを意識して課題設定を考え、授業を組み立てていくようにしています。

最後に

このアクティブ・ラーニング授業実践部会において、ご教授して下さった大阪教育大学大学院の寺嶋浩介先生、鳴門教育大学の泰山裕先生、そして本部会に関わって下さった多くの先生方には、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

(尼崎市立南武庫之荘中学校教諭 寺岡 亮)

☆☆ 社会教育課の人権教育小集団学習会について☆☆

社会教育課が実施する「人権教育小集団学習事業」は、昭和55年度から幼稚園・小・中学校のPTAが中心となって活動が始まりました。現在は44グループがあります。社会教育課の社会教育指導員が、市内で人権学習を重ねてきた人権啓発推進リーダーと一緒に、各グループから推薦されたオピニオンリーダーと共に6月から2月までの期間に、月1回の割合で年間8回の学習を行っています。

学習会は、年度当初に学習内容や講師招聘の計画を立てる中で、同和学習は必ず取り入れています。法務省人権擁護局が毎年定めている17の啓発活動重点目標などを参考にしていますが、自分たちの関心のある「子育て」「いじめや不登校」なども毎年学習計画に盛り込みます。中には神戸地裁尼崎支部の刑事裁判の見学を計画したグループもあり、日頃、目にする事のない裁判を傍聴して、人の命の尊さや人間関係の大切さを学ぶことができました。

2月には人権学習小集団交流会を行います。これは小集団学習代表として各地区のオピニオンリーダー6名が、自分たちの学習のまとめを発表します。毎回のことですが学習を始める前は、「人権学習なんて難しく、私には関係がない、今さらなど」の思いが、様々な学習を進めるにつれて「日々の生活の中に人権課題がたくさんある、人権は身近でとても大切なもの、まずは家族の思いやりから始まる」などの前向きで素晴らしい感想が発表されます。また、「日々の子育てや家族の世話、仕事などの忙しい中で、立ち止まり自分を見つめ直す良い機会になった」との意見や、「異なる意見でも安心して自由に発表できて互いの考え方が深く理解でき、みんなの絆が深まりました」とのうれしい感想もありました。

学習形態は、講演、討論会、ワークを取り

入れた学習会など様々です。参加者数は10～20名ぐらいの幼稚園・小・中学校の保護者が中心ですが、中にはPTAのOBの方がもっと学習したいと立ち上げられた自主グループもあります。

また、社会教育指導員による市政出前講座「身近な人権」では、家庭や職場など広く一般市民にも人権学習を行っています。これにより昨年は保育所、高等学校、地域団体等にも出かけて講座を行いました。

最後に、皆さんは「人権教育」や「人権学習」と聞くと、重く堅苦しいイメージを持ちませんか。また、私は差別などしていないので、自分には関係ないと思っていませんか。しかし、自分を振り返ってみたとき、人を何気なく差別したり、根拠のない偏見で知らず知らずのうちに相手を傷つけてしまったりしていることはないでしょうか。「人権問題」は気づかずにいるだけで意外に身近なところにあるのです。人はそれぞれ顔が違いうように性格や考え方も異なり、違いがあって当たり前です。人とのつながりで必要なことは、私たち一人一人が人権感覚を磨き人権意識を高めていくことです。そのためには次のことが大切です。

- ・自分を受け入れる
- ・違いを認め合う
- ・関心を持ち正しく知る

私たちは、人との関わりなくして生きていくことはできません。人との豊かなつながり、関わりをつくり上げ、広げていくことが「人権」そのものなのです。

(社会教育課社会教育指導員 宮下 邦雄)



ü Mñ_ ¥ î ¼ î b HL Æ

5=

5=

9HW

888

06

ü Mñ)r œ- å ± î c %± %> f \ A± á î c Û g b ± á î >

• b) Ó

|

· 88% * %
· %*% · %-S · %-,

· 88% (% %

& &

&

&

&)

· 88% + 88 88% % % %

88%

)